

## 薬物乱用防止教室

7月18日(木)に全校生徒を対象とした「薬物乱用防止教室」を実施しました。

中高校生にも急激に広がりつつある薬物の実態や甚大なる健康被害について理解を深め、いかなることがあっても絶対に手を出さないことを再認識することを目的としています。

青少年の薬物乱用の背景には様々な要因があることから、本校ではこうした防止教室に加え、年間を通じて生徒指導だよりや集会等でも薬物の怖さについて度あるごとに伝えてきました。



今回は講師に北海道旭川方面中央警察署生活安全課少年係の横岸澤 拓也氏をお迎えし、薬物乱用の実態や勧誘へのきっぱりとした断り方について講義をいただきました。

最近では、MDMAなど色もカラフルで表面には馴染みやすいデザインを施してある錠剤型合成麻薬も出回り、若者の気を惹こうとしているとのことでした。しかし、これも一度手を出したが最後、その蟻地獄から抜け出すことが出来なくなり、しまいには廃人になったり死に至るケースもあるとのことでした。生徒たちは、わずかな心隙が、あるいは遊び心が一生を台無しにしてしまうことを改めて認識したようでした。

また、勧誘は身近なところにあります。紹介されたDVDでは、学校の先輩と称する女性が後輩に向かって「ダイエットにいいよ」とか「頭がすっきりして勉強も出来るようになるよ」と気軽な感じで薬物を進めていました。特に「一度試してみたら」などという甘い言葉には要注意とのことでした。少しでも怪しいと思った時はきっぱりと断る意志の強さが大切です。

さらに、ネットなどにも違法ドラッグの売買があるようで特に注意しなければなりません。

最後に防犯についてお話しをしていただきました。不審者に会った時はすぐに近くの家へ逃げ込むか、大声を上げて助けを求めると、自分で自分の身を守ることの大切さも教えていただきました。

